

ここ数年この時期になると、異常なほどの暑さで熱中症の危険を示す指数が高いため、せつかくの晴れの天気でも休み時間に外で遊べないということが起こっています。この暑さは、いろんな意味で子どもたちの健康を損なうものなので本当に心配になります。

今週金曜日から個人懇談会が始まります。お子さまのことで気になることなどがあれば、担任にご相談ください。保護者の方と協力して、よりよい支援を考えていきたいと思えます。



理解しておきたい発達障がい part.3

自閉スペクトラム症 (ASD) とは



今回は、自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder の頭文字をとって、ASD と言われることがあります。以下 ASD と記します。) について紹介します。

前月号に掲載した注意欠如・多動症 (ADHD) が行動面の困難さだとすると、ASD は、認知面の困難さといえます。

アメリカ精神医学会がつくった診断基準 DSM-5 において、ASD は、

A. 社会的コミュニケーションおよび相互関係における持続的障害 (以下3点で示される)

- ① 会話のやり取りや感情を共有することが難しい。
- ② 人と交流する際、身ぶり手ぶりなどの非言語的コミュニケーションがとれない。
- ③ 年齢に応じた対人関係を築いて維持できない。

B. 限定された反復する様式の行動・興味・活動 (以下の2点以上の特徴で示される)

- ① 常に同じ動きや物の使用、会話を繰り返す。
- ② 同一性への強いこだわりがある。
- ③ 非常に限定的で固執した興味がある。
- ④ 音や光、触感など感覚刺激に対して、極度に過敏あるいは鈍感である。



上記の2領域の症状が、発達早期の段階で必ず出現する (後になって明らかになることもある。) ことと、社会や職業、その他の重要な機能に重大な障害を引き起こしているかどうかで診断されます。

社会性・対人関係の問題は、社会に出てから顕著になりやすい!!

ASD の困難さは、脳の中枢神経系の機能に何らかの弱さがある生じているものであり、養育者の育て方が悪かったために発症したものではありません。しかし、ASD の特性があるのに理解されず、適切な関わりをしてもらえないと、問題をこじらせてしまうことがあります。

社会にでてからは、ASD の人が苦手とする社会性や対人関係の部分の要求水準が高くなっていくので、職場でうまく適応できなくなり、仕事が長続きしなかったり、うつ病などの病気になるったりと、問題が顕著になってくる場合があります。そうならないために、学習が遅れがなくとも ASD の特徴が見受けられる場合には、早い時期からの療育が必要です。社会的な行動やルール、適切な人間関係を築く方法を学ぶことで、良好な予後を過ごせます。




ASDは、知的な遅れのある人から遅れない人、あるいは通常より優れた能力を有する人など様々です。知的な遅れないASDの人の特徴的な行動をまとめました。

A. 社会的コミュニケーションおよび相互関係における持続的障害

- ・自分の興味のあることを一方的に話す。(質問への答えが返ってこない。)
- ・興味のないことには、関心をはらわない。
- ・表情の読み取りが難しい。表情が乏しい。
- ・人の顔や名前に興味がなく、なかなか覚えられない。
- ・文脈の理解がしづらい。相手の意図が読めない。(目の前のことだけに反応してしまう。)
- ・言葉を文字通り受け取り、冗談や比喩、皮肉がわかりにくい。
- ・寡黙で、考えを表に出すことが苦手である。
- ・独り言が多い。抑揚のないしゃべり方をする。
- ・人の気持ちや場の雰囲気を理解し、適切な行動や態度をとれない。(空気が読めない。)
- ・雑談が苦手。
- ・視線が合いにくい。
- ・人との距離感をつかむのが苦手。(家族・友だち・ちょっとすれ違った人等の区別なく話したり、接近しすぎたりする。)
- ・身ぶりやジェスチャーなどを使ったり、理解したりすることが難しい。
- ・友だちをつくらうとしないか、つくらうとしても上手くいかない。
- ・その場がないものをイメージすることが苦手で、作文や絵画など自由にかくことが難しく、なかなか進まない。

B. 限定された反復する様式の行動・興味・活動

- ・物を並べて遊んだり、物を叩いたりする。
- ・自分なりのルールややり方に固執する。(物の置き場が決まっている。同じ道順でない嫌がる。)
- ・注意されると、自分のすべてを否定されたと感じ、気持ちのコントロールが困難になる。
- ・白黒、0か100の思考をする。(間違いや失敗が許せない。テストは100点にこだわる。)
- ・初めてのこと、場所に不安を感じやすい。
- ・予定の変更を嫌い、柔軟に対応できない。
- ・同じものを食べたがる。偏食が多い。
- ・どこに行くにも絶対に手放さない物がある。
- ・興味を持ったことに過度に没頭しやすい。(昆虫博士・電車マニア)
- ・小さいころからマークや記号、数字、アルファベットに興味をもっている。
- ・極端に限定された興味やこだわりがある。(青色でないと嫌。この順番でないと嫌等)
- ・部分に着目し、全体を見るのが苦手。
- ・感覚過敏、あるいは鈍い。 (大きな音を怖がる。服のタグの感触を嫌がる。靴や靴下をはきたがらない。けがをしていても気が付かない。等)

上記の特徴があるから、すべてASDというわけではありません。診断名が必要なのではなく、子どもが困っていないか、生きにくさを感じていないか考えて、支援していくことが大切です。

あるASDの子の話为例に考えてみましょう。お母さんに、「ちょっと、お鍋見てね。」と言われたその子どもは、お湯が沸いて、ふきこぼれていても、そのままじっと見ていました。戻ってきたお母さんは、「何やってるの。見ててと言ったでしょ!」と怒りました。その子は、「ちゃんと見ていたよ。」と言われたことをしていたのに叱られたことで悲しい気持ちになるでしょう。もし、言葉を字義通り捉えてしまい、相手の意図を読むのが難しいという、この子どもの特性を理解していたら、「お鍋を見ていてね。お湯が沸いたら、火を止めておいてね。」と具体的に言葉がけができて、子どもに失敗体験をさせてしまうことはなかったでしょう。

ASDの人は、以下のような良さをもち合わせていることがあります。こだわりを生かし、と

- ・常識にとらわれないユニークな発想
- ・ルールをきちんと守る生真面目さがある
- ・不正を嫌い、正義感が強い
- ・気持ちが優しい

ことん一つのことを追求し、優れた研究者になったり、芸術家になったり活躍されている方もいます。特性が素敵な個性として発揮できるように、周囲の理解と本人への支援の両面からアプローチをしていきたいものです。